

# 6月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比<sup>\*</sup>DI値の動き

元年6月のDI値は8指標中「取引条件」のみ小幅ながら上昇。残り7指標においては下落となった。特に「収益状況」の悪化が顕著である。

## 2. 県内中小企業の景況の現状

自動車販売整備業や板金工事業では引き続き需要が順調。生コンクリート業でも出荷量が好調であった。貨物運送業においても燃料価格の大幅な値下がりにより、収益の改善がみられたとの明るい報告も寄せられた。また技術者不足など慢性化する労働力問題を抱えている業種が多い一方で、一部では幅広い雇用対策を講じた結果、必要人員の確保ができるようになってきたとの声もあった。

依然として続く原材料高をはじめ、消費増税や働き方改革への対応を懸念する声も寄せられた。

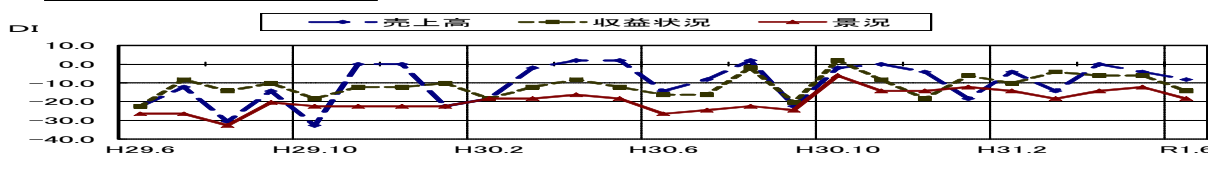
景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、エスカレートする米中貿易摩擦や、緊迫する国際情勢等による国内外経済の下振れリスクが存在しており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H30 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H31 1月	2月	3月	4月	R1 5月	6月	前月比 増減
景況	-26.5	-24.5	-22.4	-24.5	-6.1	-14.3	-14.3	-12.2	-14.3	-18.4	-14.3	-12.2	-18.4	-6.2
売上高	-14.3	-8.2	2.0	-22.4	-2.0	0.0	-4.1	-18.4	-4.1	-14.3	0.0	-4.1	-8.2	-4.1
収益状況	-16.3	-16.3	-2.0	-20.4	2.0	-8.2	-18.4	-6.1	-10.2	-4.1	-6.1	-6.1	-14.3	-8.2
販売価格	4.1	6.1	8.2	10.2	6.1	4.1	6.1	4.1	12.2	4.1	6.1	8.2	6.1	-2.1
取引条件	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	-4.1	-2.0	-2.0	-2.0	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	2.0
資金繰り	-8.2	-14.3	-12.2	-12.2	-2.0	-4.1	-10.2	-10.2	-6.1	-8.2	-10.2	-6.1	-10.2	-4.1
設備操業度	-6.1	-8.2	-8.2	-10.2	-2.0	-6.1	-6.1	-4.1	-4.1	-4.1	-4.1	-4.1	-6.1	-2.0
雇用人員	-14.3	-14.3	-14.3	-14.3	-8.2	-10.2	-14.3	-8.2	-8.2	-8.2	-14.3	-2.0	-8.2	-6.2

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

前年同月比DIの推移



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味噌・前年同月比、みその生産量は103.6%、出荷量は95.8%となった。みその生産量は増加したが出荷量は減少した。主要原材料の国内加工用米は安定価格で推移している。一方輸入米の価格は上昇しているため、価格の差が縮まってきている。
2. 漬物・漬物製造業者では大手企業の破たん等があり、その余波で注文等は増加したが利益に結び付かない。生産農家では前年並みの収穫が得られなかった。

#### <繊維・同製品>

3. 縫製・採用においては、幅広い対応策を講じた結果、必要人員の確保ができるようになった。生産性については、もともと効率の悪い業種であるにもかかわらず、改善の選択肢はきわめて少ない状況のままであるなか、新設備導入で打開できるかの検討が急がれている一方で、ヒューマンエラー対策として教育訓練を実施し、生産性の向上の一助にしている。売上、収益については、前倒し受注増による経費がコスト高に推移している。国内市場の頭打ちの感は相変わらずで、将来の景気回復への見通しは引き続き厳しい。
4. 縫製・市場の低迷。

#### <木材・木製品>

5. 製材・全般的に厳しい状況に変化なく、好転する気配も見えない。
6. 木材・原木丸太依然不需要期であるが、出材量が多い状況が続いている。価格は虫害、カビ等在庫の傷みも懸念され、買い控えも見られ弱含んでいる。製品需要も体制変わらず明るい兆しは見られない。
7. 木材・6月の木材業界の動向は、まず先月同様徳島県内に於いて必要な量の木材が市場に出てきていないということだ。県内の木材製材業の不況は深刻で、材料となる素材（丸太）の量が足りないことと、公共事業その他の仕事の数も激減している。木材製品についても流れは鈍化し木材業界川上から川下まで不況度が今までにないくらい上昇している。

## <印 刷>

8. 印 刷・6月までは総会など定期的な行事がある。毎年のことではあるが7月になった途端に閑散とした状態になる。紙の卸問屋さんに聞くと、6月の落ち込みもひどく、引き続き打つ手模索中とのこと。我々もイベントや行事を追いかけ、個々のお客様からさらなる需要を引きだす、工夫と実行をしていかなければならない。また、用紙価格の高騰も価格転嫁には進んでおらず、用紙の供給不足もまだまだ続きそうである。引き続き益々厳しい状況が予想される。
9. 印 刷・地方においては年初からの印刷用紙の値上げ、また不足の状況により中々需要が回復しないようだ。インキ等その他の資材の値上がりも聞こえてきた。しかし6月に首都圏では輸入紙も出回り始め、チラシ用の塗工紙を中心に充足感が出てきた。以前のように用紙の品質や安定供給に関する不安も薄らいできたようだ。今後は地方においても不足感が無くなることが予想され、価格もこなれてくることが期待されている。また、業界内で次の課題は人材確保に移行している様である。

## <窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・6月は昨年同月と比較して約30%程度の増加。梅雨の影響を心配していたが、雨が少ないので出荷は順調だが、災害復旧工事は思うように進んでいないようだ。
11. 生 コ ン・6月の出荷数量は、対前年同月比5%増であった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、那賀川河川改修工事など既存工事の底上げが影響している。令和元年10月より生コン価格表を改訂の予定、価格の引上げにより資産内容の安定を図る。

## <鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・業況、売上、設備操業度とも大きな変化は見られない。県内景気は回復を続けていると言われているところではあるが、景況感はほぼ横ばいの状況にある。引き続き、海外経済情勢の不安感もあり、先行き不透明感が拭えない。また、依然として人材不足で技術者などの確保が課題となっている。
13. ステンレス・国内の設備投資は、引き続き大手を中心に堅調な推移となっているが、海外情勢の影響による先行き不透明感が継続していることなどから、今後は企業の設備投資に対する姿勢が慎重になる可能性もある状況。

## <一般機器>

14. 機械金属・全体として、売上高や引合いなど良好な水準を維持しており、景況感に大きな変化は見られない。引き続き、米中貿易問題など世界経済を巡る様々なリスクから、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加、需要の停滞などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

## 【非製造業】

### <小売業>

15. 機械器具・大手自転車専門店が新たにOPEN予定であり、影響が心配される。
16. ショッピングセンター・売上高の前年対比は全店計101.4%(既存店99.9%)、客数101.8%(既存店97.4%)だった。今月は新店効果が現れた数字になりました。既存店も先月までは毎月前年対比95%前後で推移していたが(悪い時は90%前後の月があった)、99.9%と前年並みとなった。先月の連絡票では新店と商品バッティングによる競合があるとの報告をしたが、今月に限っては核店舗のSMが102.4%、化粧品専門店が105.0%と影響はなかったみたいだ。7月は既存店の売上が前年を上回ることを願っている。
17. 電気機器・6月は梅雨が長く、エアコンの動きも鈍い。他商品は変化なし。
18. 豊小売業・雨の日が少なかったにもかかわらず、梅雨をひかえているためか、一般家庭の表替えが少なかった。新築は6月決算の受け渡しのため、後半に集中した。

### <商店街>

19. 徳島市・平成から令和に変わり、お祝いムードを期待したが盛り上がりには欠ける結果となった。
20. 阿南市・全体的に横ばい。

## <サービス業>

21. 土木建築業・6月の状況は、去年に比べ工務課の新直轄、道路管理課の橋梁補修、構造物修繕工事が多く発注されている。今年度から実施される、働き方改革により、重点月間の6月度は残業の大幅削減となり、それに伴い、業務に少なからず影響が出てきている（業務納期が長くなり工程が後ろにずれこんでいる）しかしながら、残業時間の量から見ると、1業務の効率は良くなっていると思われる。業務量が各課とも増えているので、当組合も勤務形態を官と協議しながら改革を進めている。6月の実績から、官側は7月も業務時間の短縮を目標に曜日による、NO残業デーを実施するみたいだ。
22. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比9.6%の1,543台、中古車は2.7%の468台、合計では7.8%の2,011台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比5.6%の1,292台、中古車-2.6%の442台、合計は3.3%の1,734台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比5.7%の3,745台と増加。登録車の新車販売が好調で、販売台数は9.6%増となったが、6月としては例年並み。軽自動車は、中古車の販売台数が2.6%減となったが、こちらも例年並みの販売台数である。収益情報については、整備部門は昨年度とほぼ同じで、減少はしてないものの、改善されているとは言い難い状況である。
23. 旅行業・6月は特に大きな変化はなかったが、このところずっと業界の景況は良くないようだ。
24. ビル管理・特に大きな変化はない。ただ近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・654円→H30年・766円）H30年10月から新規改定額が適用されることとなり、今後、これに伴うダメージが現れてくるものと思われる。更に、働き方改革への対応、労働需給の逼迫、社会保険（厚生、健康）のあり方に関する動向等多くの課題に包まれている状況だ。

## <建設業>

25. 建設業・国土強靱化予算の増加にともない、6月末現在で、徳島県工事の請負金額で約36%増の益6億円となっている。県下全体でも約23%増の380億円となっている。受注機会は増えているが、人手不足が深刻になってきており不調・不落が懸念される。
26. 電気工事業・新設住宅口数は300件であり、対前年比32.9%と大幅に減少した。
27. 板金工事業・仕事量は順調に続いているようだ。

## <運輸業>

28. 貨物運送業・一般貨物輸送は、例年6月は低調だが今年は天候に恵まれ増加。なかでも生鮮野菜・青果関係は時期的に毎年、量的に増加。軽油単価は、海外市場の低下により前月平均比-6円と大幅な値下りとなり、収益の改善がみられた。
29. 貨物運送業・6月に大阪で開催されたG20サミットの影響で、混雑を事前回避するため物流がストップし、輸送量が大きく減少した。実際にはほぼ混雑は生じず、運行に支障はなかったようである。梅雨入りが例年より遅かったため、土木建築関係では雨の影響で現場が止まる日が少なかった。青果関係では今後の作物の生育による影響が懸念される。